

# 桜児通信

2014 no.31

題字♡marina

イラスト♥ 幸 2052Gulla

sakurako tsu-shim

## 【考えなし】との罪 アイヒマン裁判

去年の秋ころ、ミニシアター系で上映された一本の映画があります。

口伝てに人気を呼び多くの本が出版されました。主人公はハンナ・アーレントと言います。彼女の存在は僕には大学時代にさかのぼり、「哲学の巨人」たちの一人ハイデガーと結びついています。アーレントはハイデガーに始まりヤスバース、フッサールと哲学の綺羅星に師事した女性です。彼女の名もまた星の名前に冠せられているほどです。でも彼女の著作は恐ろしく難解で僕には歯が立たなかつたのを思い出します。

ハンナ・アーレント（1906～75）は、第二次世界大戦中、ナチスの強制収容所から脱出し米国に亡命した二十世紀を代表する政治学者です。63年、何百万のユダヤ人を収容所へ移送したナチス戦犯アドルフ・アイヒマン（アルゼンチンで拘束・拉致されイスラエルで裁判）の裁判を傍聴して彼女が書いたレポートはナチスの罪を輕視したと全世界から批難されました。しかしアーレントは考えを曲げませんでした。傍聴席から見るアイヒマンは極悪人ではなく「凡庸（よも悪くもない普通の、平凡な）な人間だった」、命令を実行しただけと繰り返す彼の姿にこそ心底恐怖したと彼女は言います。彼女はそこに「考えを止めた人間」の姿を見（巨悪が静かに普通に広がる事實を確信したと言いました。深みのない、特別なことのない「凡庸な悪」だからこそ、際限なく広がっていく可能性があると言いました）。

「それはいい」ともある中の、特別の際立ったものではないかい。彼の特殊な「」ではない。わたしたちの社会の中に、彼らの考えを同調する素地があるのだ。そしてその『凡庸な悪』に染まび、世界を滅ぼすといつてるのは限られた一部の人間だだけだのか」と。

アーレントは、アイヒマン裁判を傍聴し、彼の罪は「考えない」とあると結論づけたのです。彼は虐殺を知りながら、それが自分の仕事であるからと、それ以上のことを考えようとはしなかった。それ

は、「考えない」ことこそが罪なのであるというのです。  
わたしたちは、自然環境破壊の意味について、あるいは高齢化や人口減少について考えていました。  
ショウカ。今、アフリカを襲っているエボラ出血熱は風土病と考えられていました。研究が進まず世界がその恐怖に直面し、ようやく完治・撲滅の方向に動き出しました。対岸の火事のように考えていたのでは、「不幸」は昔もなく近づく。  
そこになにか問題があることに薄々気づきながらも、日々の暮らしに目を奪われ、それがどんな未来に繋がるのかを「考えない」でいたのではないか。  
わたしたちもまた「凡庸な悪」の担い手のひとりなりかも知れない。

いと/orも「本田圭祐」という選手の名前は聞いた事があると思います。彼が出てるCMで印象的なものがありました。彼が子どものサッカー教室でサッカーを教えた後、子どもたちを集めて、ある質問を子どもたちにしました。「皆には夢がありますか?」手を挙げる子どもたちが大勢います。その時、本田選手はこのように質問を続けました。「じゃあ、その夢を今この場で言える人がいますか?」手があらばら下がり、子どもたちはひそかに周りの友達の目線を伺っていました。そんな子どもたちに本田選手は次のように言いました。「僕はそれ(自分の夢)を言い続けてきました!」わたしは生徒のみんなにも誇りを持ってほないと思っています。また、そんな夢を見つけてほしいです。一つでなくてもかまわないと思います。実際わたしも学生の時の夢の一つに教師がありました。みんなの可能性はまだまだ未知数である事を覚えて下さい。まだワールドカップまつ只中ですが、自分の夢を今も叶え続けている本田選手を応援したいと思います。

本田

圭祐

選手

が

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

さん見ることができました。

この日は、(新喜劇を生で見たい)という私の願いが叶った日です。  
また絶対に行きたいです!!!

## 奈良歴史巡礼シリーズ

### 壬申の乱とその歴史的背景 (第一回)

鶴童 (ジャッコウ) 山口 拓章

Anemone Licorice

その後、倭国は普々と国家形成の道を歩みましたが、その歩みが再び混迷の度合いを高めていくことになつたのは、またしても東アジア情勢が変化したためでした。六五五年に高句麗 (こうくり)・百濟 (くだら)が新羅 (しらぎ)に攻め込むと、新羅は唐に援兵を求めるました。その結果、六六〇年に百濟の諸城が陥落し、百濟王義慈王 (ぎじおう)は遂に降伏。ここに百濟王朝は滅亡しました。しかし、百濟の遺民はその後もなお頑強な抵抗を続け、百濟再建のための援軍を倭国に求めました。これに對して倭国の大兄皇子 (さいめい) 天皇は百濟再建に伴う利益を確保するために百濟救援を決定し、六六一年北九州へと出発しました。しかし、同年七月現在の福岡県朝倉市志波 (しわ) にあつたどされる朝倉橘広庭宮 (あさくらのたちばなのひろにわのみや) で齊明天皇が死去したため、中大兄皇子は皇太子のまま国政を執り、六六年八月に第一次侵攻軍を、六六三年三月に第二次侵攻軍を派遣しました。同年八月、唐・新羅の連合軍は白村江 (はくそんこう) に軍船百七十艘を並べて倭軍を迎撃しました。これを白村江の戦いといいます。『日本書紀』は白村江の戦いの勝敗を「須臾之際 (どきのま)」に、官軍敗続 (やぶ) れぬ。水に赴きて溺れ死ぬる者衆 (おお) しと記し、多数の水死者が出るほど倭・百濟軍は大敗を喫しました。こうして百濟復興の夢は潰え、高句麗もまた内紛をきっかけに六六八年滅亡することになりました。その後、唐と新羅は朝鮮半島の支配をめぐって対立したため、倭国に対する唐・新羅の脅威は軽減し、以後、倭国は白村江の戦いで敗北という未曾有の緊急事態に対処するための政策を実行に移していきました。六七〇年の庚午年籍 (こうごねんじやく) の作成や六七一年の近江令 (おうみりょう) の制定はこのよくな歴史的文脈で考えなければなりません。

弟子の冉求が『先生の教えられる道徳の学説は素晴らしいのですが、私には実力がないのでそれを実践できません』と嘆いたところ、孔子はあつさりと『それは実力が不足しているのではなく、自分で自分の力に限界を見出しているに過ぎない』と指摘しました。生涯を通して実践と決断の人だった孔子は、『自分の力を信じて行動する重要性』を冉求に説いたと言われています。

うみなし 編集後記 霧舎寒九

映画【ドラえもん スタンド・バイ・ミー】観てきました。3Dが本当にきれいでした。すぐの感想はストーリーは小さな子には難しいな、です。ところが我が家の小学二年生はごく普通に観ていたので驚いて、

わかつたのと尋ねると、その問い合わせの方がわからなかつたらしく、のびた君が一生懸命だったから「よかった」とそれだけでした。それを聞いて、そうだな、深い意味も何も要らない。ごく普通に頑張れば頑張った分の結果、たどえそれが直接に繋がらなくても何かは得るもの・・と。これも「大人的」見方だね。

「美しいものになら微笑むが良い」それだけなんだと詩人は言いまし  
たつけ。

☆☆ ☆☆☆

☆

論語  
の  
窓

冉求 (ぜんきゅう) 曰く、子の道を説ばざる (よろこばざる) には非ず

(あらず)。力足らざるなり。子曰く、力足らざる者は中道にして廢む (や

む)、今汝 (なんじ) は画れり (かぎれり)。雍也篇 十二

